

静岡大学 理学部 同窓会会報

NO.5

発行所
静岡大学理学部同窓会
静岡市大谷836
静岡大学理学部内
Tel 0542-37-1111(代表)
会長 赤池大樹

富士山に登りましたか

理学部同窓会会長 赤池大樹



静岡大学理学部同窓会会員の皆様明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。昨年はソウルオリンピックという世界的行事があり、明るい話題も沢山ありました。一方、潜水艦などしおと釣り船第一富士丸の衝突という痛ましい事故、リクルートコスモス社の株

譲渡疑惑等々社会問題も多々ありました。また世界をリードするアメリカの大統領もレーガン氏からブッシュ氏へと政権が交代し今後日本とアメリカの関係、アメリカとソビエトとの関係が注目されます。このような大きな世界のこととはともかくといたしまして、静岡もだいぶ変わりました。が相変わらず富士山は美しいです。皆さんは静岡に四年以上は住んでおられたと思いますが一度は富士山に登られたことがありませんか。今日も私の仕事場である富士高校の教室の



夏の富士山頂

から子供を連れて毎年富士登山をしております。はじめのころは八合目とかある時は九合五酌ですぐそこに頂上が見えるのですが、子供が高山病にかかりやむなしく下山したこともありまして。登山をしますといういろいな人に出会います。四年前でしたか、台湾からみえた男性と親しくなり名刺の交換をいたしました。その後一二度手紙の交換を致しました。去年は八十六歳のお婆さんに会いました。五十

位の男の人です。両手の脇にパイプの杖をつき、膝のところは両足とも金具で固定されていた。彼の一步が私の百歩にも足りないようでした。しかし話をしてみるととても明るくまた

です。是非機会をみつめて富士山に登って下さい。さて昨年三月には数学科三十九名、物理学科四十四名、化学科四十一名、生物学科三十一名、地球科学科二十九名計百八十四名の新しい会員をむかえました。我が理学部も昭和四十四年三月に我々第一期生が卒業して以来今年で第二十一期生の卒業となりました。卒業生総数も三千名近くにもなりました。卒業して数年は住所の変更がはげしくなかなか正確にはつかめません。また住所変更がわかってもらえなかったことが大変苦勞です。そこで会員名簿の管理を機械化してより正確な名簿にしていきたくと考えています。いろいろの問題点もありますが御協力下さい。(数学科第一回卒)



こんな体にかけてなるものかというものがいい気迫が伝わって来ました。彼の姿を見て本当に頭がさがりました。ながながと書きましたが、富士山は素晴らしい



昨年の九月二十二日、火星が地球に大接近して多くの人々を魅了した。折からの天候不順の中、雲の切れ間に見える赤く輝く火星は、さまざまな思いを私たちに甦らせながら、二年二月月ぶりに大きな姿を現わした。古くから火星は、その血のような色と、不思議な動き方から人々の注意を引いていた。地動説が提唱された頃、ケプラーは精密な火星

の観測記録を用いて有名な惑星運動に関する法則(ケプラーの法則)を発見した。(因に、この後の第三法則はニュートンの万有引力の法則のきっかけとなった)ガリレオ以後、望遠鏡の発達により、自転周期が決定

一年の長さ六百八十七日、一日は二十四時間三十七分、表面重力は地球の0.38倍、大気はほとんど二酸化炭素から成り、表面気圧は地球の百七十分の一。また、この惑星の自転軸が二十五度傾いていることから四季

よぶ峡谷も知られている。地球に接近する火星を見ようと私の所属する高校の地学部が夏から秋にかけて惑星観測を実施した。今回は火星、木星、土星が主な対象である。一年生は初めて望遠鏡を見る者がほとんどで、火星の極冠や表面の淡い模様、土星のリング、木星のガリレオ衛星などが特に好評であった。肉眼では点にしか見えない惑星が、望遠鏡を通して見ると教科書の写真のように見えることから、皆一様に驚き、感心し、満足している。市街地に近いことから、本校でも空が明るく、淡い星雲状

の天体は極端に見えかたが悪い。それでも、興味を持った部員は熱心に目標の天体を探し出していく。このような経験をを通して、一人でも多く、宇宙や、地球を好きになる生徒が出てくれることを期待している。

星を見る 佐伯泰広

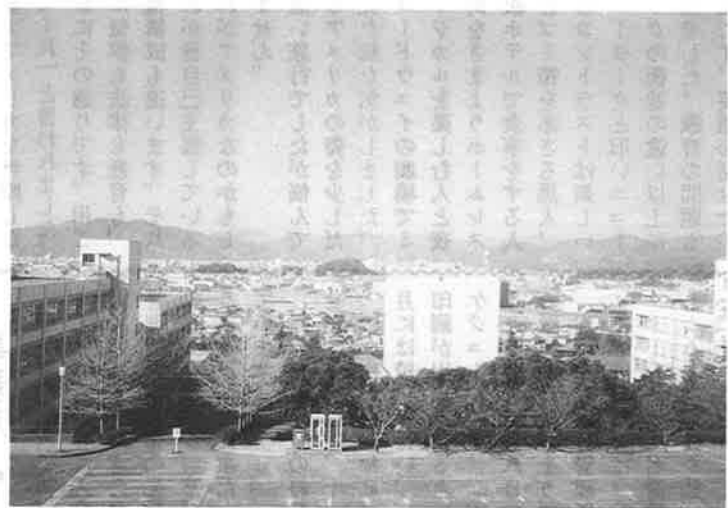
され、表面のスケッチも描かれた。そして今日、惑星探査機が打ち上げられ、火星表面の詳細な地形も分ってきたことから、火星は天文学のみならず、地質学の対象にもなってきた。

の変化があり、極冠と呼ばれる極をおおう氷とドライアイスの消長により、季節の移り変わりがよく分る。さらに、標高二万四千mに達する巨大な楯状火山や深さ六千m、長さ四千kmにお

(地球科学科 第十四卒)



木星 (撮影 地学部2年生)



図書館前から見た静岡市街(1989.1.2)



片山寮への坂道(1989.1.2)

キャンパスのスナップ

鈴木 屹

静大を昭和四十五年に入... 成期で旧制静高時代の古き面影を色濃く残す大岩から新時代の到来を告げる開通間もない東名高速道路が真近に通る大谷片山地区へ移った頃でした。私にとって、激しく動く時代の中で、小の葉のように揺れるのが実感できる青春でした。

同窓生の声

(化学科第四回卒)

有機金属エビタキシヤル成長(MOCVD)や分子線エビタキシヤル成長(MBE)技術により一原子層づつ単結晶膜を成長することが可能になり、又微細加工技術によりサブミクロンのパターンまで形成することが可能となった。これらの技術により電子波を利用するようないくつかのデバイスまで出現した。これからは今まで以上に物理の力が要求されている。

匿名

私が静岡大学に入ったのは二十年前の昭和四十三年、そして四年間の短い学生生活は矢のように通り過ぎました。時代は静大理学部創

交わり、学科・学年を越えた交わりは意外と根強いものがあったと今更ながら思います。文理から続いている生物教室の同窓会「玄針会」は、今では会員が逆転し、新しい時代に入りました。文理の方とお目に掛かる機会もこれから益々少なくなっていくので、その方向に動いていくのでしようか。寂しい事ですが、しかしこの時が忘れかけていた理学部一期生たる威厳に恍惚となれるのかもしれない。卒業後の二

職場紹介

(株)環境アセスメントセンター

松井 一晃

私は環境アセスメントという仕事に従事しています。環境アセスメントとは、環境庁では環境影響評価と呼び、「開発行為等が空気・水・土・生物等の環境に及ぼす影響の程度と範囲、その防止策について、代替案の検討を含め、事前に予測と評価を行う」とこと定義づけています。勿論、住民生活を含めた環境のことで、手順としては、地域の特性を整理して計画地域のもつ位置づけを明らかにし、現地調査を実施し、開発計画と照らし合わせ、開発によって与えるであろう影響をあらかじめ考慮して対策等の提言を行うというものです。この成果は、報告書として公表されるもの(縦覧、公聴会等)、一般にはあまり情報として流れず、報告書が開発の「免罪符」や「かくれみの」となっているのではないかと、という疑問も一部で聞かれます。

紹介

石川 博夫

私は理学部の研究室では粘土鉱物学を専攻したこともあって、名古屋の陶磁器メーカーに就職し、はや五年がたとうとしています。会社では研究室に配属され、主に陶磁器の原料である粘土、長石などの調査、研究

十年間は女としての主な仕事を燃焼するに足るものでした。今後足りないものを補うとしたら、主人を大切にすることにしようか。(生物学科第一回卒)

を行なっています。仕事柄鉱山へはよく出掛、日本国内では、南は九州・天草陶石、北は新潟・村上セリサイトと、本州・九州の主な鉱山へは行ったことがありましたが、海外の鉱山としては、つい先日、初めて韓国南部にあるカオリン鉱山を調査しに行ってきた。学生の時、文献で読んだあの韓国カオリンの鉱山を目の当りにすることができ、大変感激しました。

紹介

石田 邦明

昨年六月に第四次全国総合開発計画が策定されて以降、総合保養地域整備法(リゾート法)関連で開発ブームが起きています。即ちゴルフ場や別荘地等の造成計画が、東京都を除く道府県の八十地域で浮上しており、大半が実施されています。考えられます。リゾートは地域活性化の切り札のように言われていますが、慎重に対応すべき点が多いように思います。また、都市域への人口や機能の過度の集中化が社会発展の断面のように把握されがちです。反面、過疎地域の荒廃ぶり

を住民と共に形成していきたいと考えています。

ガイドに「ニューヨークを見てアメリカを判断しないでくれ」と言われました。確かにその通りです。州ごとに気候も法律も教育も、人種構成も違います。それぞれが自己主張しているそれがアメリカなのかもしれません。

事務局より

野口 和廣

理学部同窓会が発足して、まもなく六年目に入ろうとしています。同窓会名簿の管理、同窓会報の発行、この二つの仕事と同窓会の行うべき最低の仕事だと考えています。

短い旅行でしたが悩んでいるアメリカの姿を少しだけ見た様な気がしました。プロードウェイの劇場でミュージカルを楽しむ人と夜の街をさまようホームレス高級ホテルで食事をする人々とゴミ箱をあさる黒人、そのコントラストは新しいニューヨークと古いニューヨークの街並の違い以上に強烈でした。教育の問題も深刻です。英語を話せない人達の増加、人種差別、都市の学校の荒廃、教員の質の低下等多くの問題を抱えています。「先生、教室へもどって下さい」という雑誌の記事は印象的でした。(文部省海外派遣(短期)アメリカ訪問を終えて) (数学科第三回卒)

現在、二千人の現住所が分かっていますが、若い同窓会員を中心に一年間に三百人位の住所が変更になります。事務局員が事務局で事務を執るといふ形態を予算の関係上採れない現在、各学科の名簿担当者が、常に住所変更状況を把握しておくことになってくるのですが、仕事の合間にやるという事は、簡単なようではなかなか難しい。最後にお願いを二つ、住所未確認の同窓生の住所をぜひお知らせ下さい。会費を是非、納入して下さい。お願いします。(野口 和廣)

昭和62年度 静岡大学理学部同窓会 会計報告 (～S63.3.31)

収入の部		
前年度よりの繰越		1,201,339
年会費・寄附		861,300
入金金		48,000
名簿代金		259,000
受取利息		519
雑収入		1,230
計		2,371,388
支出の部		
印刷費		1,161,804
通信費		327,630
会議費、事務用品費等		118,970
計		1,608,404
差引残高		762,984

以上 報告いたします。 昭和63年3月31日
会計担当理事 浅野安人 杉本寿久 金子正純
監査の結果、報告の通り相違ありません。
監査 佐藤洋一 松山初男